

はねっと 5

仙台市市民活動サポートセンター通信 ばれっと

“ばれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター(サポセン)にいろいろな人が集まり、それぞれの色(個性)が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。



一歩踏み出す気持ち芽生える「ワクワクビト」

「これはなんだ!？」 興味を探究する機会を誰にでも

Tohoku Space Community

かわだ りえと
代表 川田 理栄仁 さん(20)

川田さんは、東北大学理学部の3年生で専門は地球科学です。「様々な視点で研究する人たちから刺激を受けながら、宇宙を通じて地球の謎を解き明かしたい」と意気込んでいます。同じくらい力を入れているのは、科学の楽しさを多くの人たちに広めること。東北6県の宇宙好きが集まるサークル「Tohoku Space Community」の代表を務め、東北の子どもたちに宇宙教育の機会を提供しています。例えば、「杜の都宇宙塾」と題した体験企画では、リモコン操作ができる手のひらサイズの宇宙探査機を工作したり、巨大双六で星の一生を巡って遊んだり、移動天文車「ベガ号」で星を観望したりしました。企画をするうえで大切にしていることは「遊び」「体感」「気づき」の3つの要素です。「実体験を通じ、理論に加えて五感で感じるワクワクがその後の学びを後押しする」というメンバー全員の考えのもと、探求心を育むきっかけをつくっています。

川田さんの探求心が芽生えたのは小学生の頃。星が綺麗



で有名な地元宮城県小林市でいつも眺めていた星空でした。「ふと、星って何なんだろう?と思った。正体分からないことにワクワクしたし、底知れない何かが目の前に広がっていることが少し怖くも感じた」と振り返ります。一方、身近に宇宙や星について学びを深める場は、多くはありませんでした。「研究体験ができたり、同じ宇宙好きが集まったりする場があったらいいな」。そんな気づきが今につながっています。「探求心に火をつけてくれたふるさとに恩返ししたい」。将来の野望は、地元でも、子どもたちが最先端の科学技術や研究に触れられる機会を増やすことです。



▲体験企画「星の一生巨大すごろく 星の一生をめぐって」



▲体験企画「星空観望会 星をみる会」ベガ号とともに

Tohoku Space Community

2018年発足。「宇宙好きのコミュニティを形成し、新たな出会いや学びを創造する」をミッションに掲げる大学生中心の任意団体です。メンバーは東北6県から集った天文学や地球科学、ロケット開発など宇宙に関連する様々な学問を専攻する大学生19人。2023年3月21日に開催した「杜の都宇宙塾」は、仙台市の「ユースチャレンジ! コラボプロジェクト」事業に採択された仙台市との協働事業です。小学1年生～6年生の子どもたちとその保護者のべ180人が参加しました。



▲HP



市民活動団体を紹介「市民活動突撃レポート！」

体験でしか得られない「学び」で子どもの生きる力を育む

おてんきぼうさいラボは、東日本大震災を機に、防災や減災の知識を広めようと、気象予報士・防災士7人で立ち上げました。メンバーの専門知識を活かし、小学校の理科授業や地域の生涯学習の場へ出向いて、気象や防災などに関する出前講座を行っています。コロナ禍で子どもたちの体験の機会が減少したことを課題に感じ、2022年5月から月1回、市民センターで小学生向けに、様々な体験活動をする「体験学習ラボ」（以下、体験ラボ）を主催しています。電磁石や大気圧、てこの原理を学ぶ科学実験や工作の他、地域の人や団体を講師に招いての料理やそろばんなど、体験活動は多岐にわたります。実体験を通し、自分で考えたり工夫したりする力や「自分でできた!」という達成感を得て、社会で生きていく力を培ってほしいと考えています。1回約2時間の体験ラボで10種類を超える実験や工作を盛り込むことも。体験ラボでは、いつも「不思議!どうしてこうなるんだろう?」「見て、できたよ!」と子どもたちから次々と声が上がります。代表の木立芳行さんは、「動画コンテンツも豊富な今ですが、分かった気にならないで、自分でやってみることを通じた学びの機会を作りたい」と話します。

議!どうしてこうなるんだろう?」「見て、できたよ!」と子どもたちから次々と声が上がります。代表の木立芳行さんは、「動画コンテンツも豊富な今ですが、分かった気にならないで、自分でやってみることを通じた学びの機会を作りたい」と話します。



▲生活に潜む不思議を体験

おてんきぼうさいラボ

TEL 080-5560-1468

Mail ottenkibousai.lab@gmail.com

今後の
活動予定は
こちら▶



市民活動団体を紹介「市民活動突撃レポート！」

びりりん、もくもく、ぶんしっしで、学ぶことの楽しさを伝える

NPO法人楽知ん研究所は、どんな人にも科学の扉を開くため、力学や光とレンズなどをテーマに、予想と実験を繰り返して学ぶ科学入門講座を全国各地で開催しています。電気の本体を探る「びりりん」、ドライアイスで遊ぶ「もくもく」、原子論入門「ぶんしっし」などユニークなネーミングの講座が勢ぞろい。親子孫が予備知識なしで一緒に楽しめます。講座の醍醐味は、予想を立て、参加者同士で話し合い、実験で確かめるというプロセスを繰り返し体験すること。過去の科学者たちが、身の回りの疑問を試行錯誤しながら解決してきた、その過程を辿るように練り上げられたプログラムです。考え方自体を学び、新しいことを発見する面白さや感動を多くの人に味わってもらおうと考えています。仙台で講座を主催する船迫新治さんは「大人も子どもも大歓迎。脳ミソが喜ぶ体験を味わいましょう」と呼びかけています。

開催情報

5月14日(日)	「もっとぶんしっし」 ちょー入門講座
6月3日(土)・ 4日(日)	「親子孫で (たのしい仮説実験)講座」 (世界の国旗)
6月25日(日)・ 7月9日(日)	「親子孫で (たのしい仮説実験)講座」 (ミクロの世界を旅しよう)



▲予想を立てる楽しさに夢中!

場所: 東京エレクトロンホール宮城 (仙台市青葉区国分町3丁目3-7)

NPO法人楽知ん研究所 仙台

Mail funahazama@luctin.org

最新情報は
HPから▶



つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。お気軽にご相談ください。

今月の休館日 5月10日(水)、24日(水)

開館時間 月曜日～土曜日 9:00-22:00

日曜日・祝日 9:00-18:00

休館日 毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日) 年末年始

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

[ホームページ] <https://sapo-sen.jp>

[サポセンブログ@仙台] <https://blog.canpan.info/fukkou/>

「ばれっと」バックナンバーは
ホームページからダウンロードできます。



ほぼ毎日更新している「サポセンブログ@仙台」で、取材の様子やこぼれ話を配信しています。

編集・発行

仙台市市民活動サポートセンター

(指定管理者: 特定非営利活動法人

せんだいみやぎNPOセンター)

発行日 2023年5月1日

デザイン PEACE Inc.

[Twitter]

@SCSC4CA

[YouTube]

サポセンちゃんねる

